

# 平成23年度事業活動報告（委員会活動状況）

## 1. 「日本鋼製軽量ドア協議会」ホームページの開設

昨年度からの継続テーマであった「日本鋼製軽量ドア」ホームページを開設し、当協議会の認知度を高めるとともに、会員に有用な情報を提供していく基盤を築くことができました。

## 2. 環境対応商品に関する活動

JISK5629（鉛酸カルシウムさび止め塗料）の廃止が目の前に迫っている。鉛・クロムフリーさび止め塗料への転換は必須であり、平成25年版公共建築工事標準仕様書からは外れることが確実である。

今まででは、（社）日本塗料工業会の方針に従うしかない受身の姿勢であったが、（社）日本サッシ協会、（社）日本シャッター・ドア協会と情報交換しながら、ドアメーカーとして取扱いがJISK5629と大きく変わらない、実用的な塗料の採用を（社）日本サッシ協会スチールドア部会を介して、（社）公共建築協会へ上申する活動を行いました。

## 3. ドアの錆び及びお手入れ方法に関する資料の展開

JSDAと協働で製作した「ドアのお手入れについて」のパンフレットを、製品に同梱し、一般ユーザーに認知してもらい、錆び等による不具合事例を少なくするよう活動を進めた。（2社が製品に同梱）

## 4. 鋼製軽量ドアの特定防火設備としての法令解釈Q&A集の更新

法令遵守の基本理念に基づき、平成12年建設省告示第1369号の例示仕様に該当する『鋼製軽量ドア』について、法令解釈について最近よくある質問を中心に協議会の統一見解としてQ&A集を作成しました。

なお、この資料については、協議会内での運用資料とするため、鋼軽協HP内の会員専用ページに公開しました。

## 5. 集合住宅の開口寸法制限についての建築改裝協会との協働見解書作成

改修用玄関ドアについて、告示2563号の隨時閉鎖型防火戸に付属する避難口の開口制限（W750×H1800）は適用外であるという見解書を建築改裝協会と協働で作成しました。（HP掲載については、審議中です）

## 6. 美和ロック社新製品開発時のドア性能への影響に関する申入れ

錠前メーカーが新製品を開発する場合、ドアの基本性能に影響を及ぼす可能性がある場合、事前に当協議会へ相談し、自社で扉全体での性能確認検証を行ってから営業活動をしてもらうよう提言し今後の対策について審議しました。

## 7. 軽量ドア出荷データ集計方法の改善

昨年度までの出荷統計データでは、軽量ドアの全体規模と開き系と引き系（折れ戸含む）を把握するに留まっていましたが、マンションドア・オフィス用・商業施設用軽量ドアに分類し、さらに新築・改修の分類、C Pの数量把握等も追加した集計方法に改善しました。この改善により用途別の市場規模を把握できるようになり、今後の商品開発にも有用なデータとすることができました。

## 8. 課題

### 1) 関連団体との連携

昨年度の反省事項として、他団体との連携を高めることが出来、BL仕様の改訂に関する意見の盛り込み等効果を上げることが出来ました。しかしながら、活動的には受身的な内容が多く、当協会から積極的に他団体に働きかける動きも徐々に進めているところではあります。次年度も、この活動を続けていくことが必要と考えます、